

洪水・土砂災害

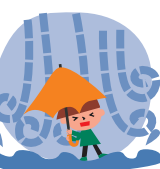
気象庁
洪水
キキクル



気象庁
土砂
キキクル



雨の降り方と強さ

1時間雨量	10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm以上	110mm
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨	記録的短時間大雨情報
人の受けるイメージ	ザーザーと降る 	どしゃ降り 	バケツをひっくり返したように降る 	滝のように降る 	息苦しくなるような圧迫感がある 	数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨(気象庁が発表)

※今いる場所で雨が降っていないくても、周辺や山間部で大雨が降っていたり、雷鳴が聞こえたりする場合は、急な河川の増水や局地的な大雨が降るおそれがあるため、気象情報をよく確認してください。

氾濫(はんらん)の種類

外水氾濫

河川の堤防から水が溢れ、または堤防が決壊して家屋や田畑が浸水することです。



内水氾濫

堤防から水が溢れなくても、川の水位上昇や下水路の排水能力の不足などが原因で、降った雨を排水処理できずに引き起こされる氾濫のことです。



洪水キキクル(洪水警報の危険度分布)

中小河川の特徴である急激な増水による洪水災害発生危険度の高まりを、5段階に色分けして地図上に示した情報です。

洪水キキクルでは、避難にかかる時間を考慮して、3時間先までの流域雨量指数の予測値(10分ごとに更新)を用いており、洪水警報などが発表されたときに、どの川で危険度が高まっているかを把握することができます。

洪水キキクルの色が持つ意味と相当する警戒レベル

災害切迫	【警戒レベル5相当】
危険	【警戒レベル4相当】
警戒	【警戒レベル3相当】
注意	【警戒レベル2相当】
今後の情報等に留意	

洪水時における避難のポイント

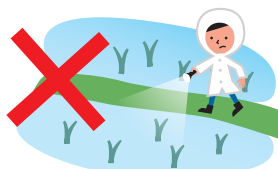
- 長靴は水が入って歩きにくく危険です。裸足やスリッパも禁物です。なるべく運動靴をはきましょう。



- 足元が見えないことが多いので、よく通っている道でも道路の真ん中を杖などでつきながら慎重に歩きましょう。



- 大雨時の田んぼや河川の見回りはやめましょう。



- 垂れ下がった電線には近づいたり、触ったりしないようにしましょう。発見した場合は、九州電力またはNTTへ連絡してください。



- 橋を渡らないようにしましょう。



雨が止んだ後も注意

雨が止んだ後も地盤が水を含みゆるくなっているため、土砂災害の注意が必要です。

洪水・土砂災害ハザードマップについて

想定し得る最大規模の降雨によって河川が氾濫した場合の浸水範囲と浸水深を示した洪水浸水想定区域と土砂災害警戒区域・特別警戒区域を地図上に示しています。

土砂災害の種類とその予兆現象

土砂災害警戒区域は、「土地災害が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域」です。

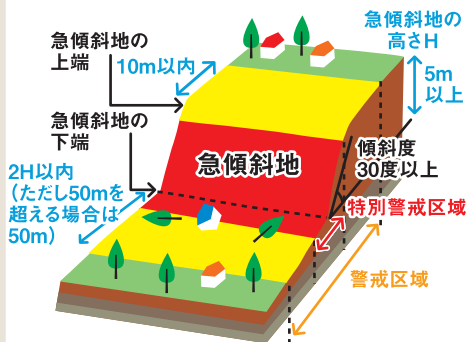
土砂災害特別警戒区域は、「土地災害が発生した場合に、建築物に損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域」です。

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

雨などの影響によって、土の抵抗力が弱まり、急激に斜面が崩れ落ちる現象です。

予兆現象

- がけに割れ目が見える
- がけから水が湧き出ている
- がけから小石がぱらぱらと落ちてくる

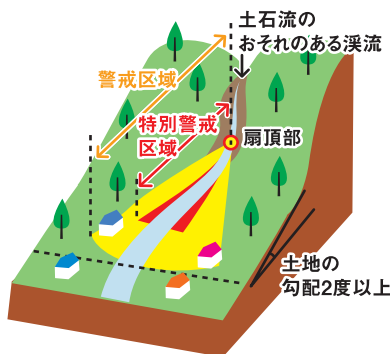


土石流

山腹や溪床を構成する土砂石礫の一部が雨などによって水と一体となり、一気に下流へ押し流される現象です。

予兆現象

- 山鳴りがする
- 急に川の流れが濁り、流木が混ざっている
- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる

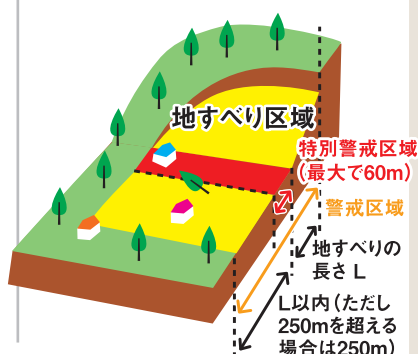


地すべり

斜面の土塊が地下水などの影響により、すべり面に沿ってゆっくりと斜面下方へ移動する現象です。

予兆現象

- 沢や井戸の水が濁る
- 地面にひび割れができる
- 斜面から水がふき出す



土砂災害警戒情報【警戒レベル4相当】

土砂災害警戒情報が発表されたときは『**命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない**』という非常に危険な状態です。情報は市町村単位で発表されるので、住民のみなさんの自主避難の判断に活用できます。

土砂災害警戒情報が発表されたら...

- ハザードマップを確認し、土砂災害警戒区域外へ避難する。
- 新宮町が発表する避難情報に注意する。
- 周囲の様子をよく観察し、予兆現象を確認したらすぐに避難する。

土砂キキクルの色が持つ意味と相当する警戒レベル

災害切迫	【警戒レベル5相当】
危険	【警戒レベル4相当】
警戒	【警戒レベル3相当】
注意	【警戒レベル2相当】
今後の情報等に留意	

土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)

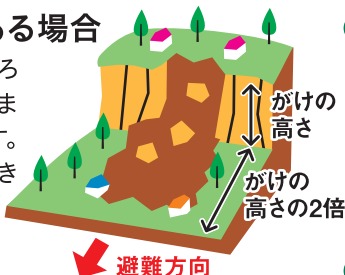
大雨による土砂災害発生の危険度の高まりを、1km四方の領域(メッシュ)ごとに5段階に色分けして地図上に示した情報です。

土砂キキクルでは、避難にかかる時間を考慮して、2時間先までの雨量および土壌雨量指数の予測値(10分ごとに更新)を用いており、大雨警報などが発表されたときに、どこで危険度が高まっているかを把握することができます。

土砂災害時における避難のポイント

● がけ崩れのおそれがある場合

一般的に、地面が平らなところでは、がけの高さの2倍の距離まで土砂が来るとわれています。避難する場合は、がけからできるだけ遠くに逃げてください。



● 屋外に避難する場合

避難の際には、他の土砂災害の危険があるところとはできるだけ避けましょう。

● 土石流のおそれがある場合

溪流沿いの低い土地から離れてください。土石流のスピードはとても速いので、土石流を見たら、流れに直角方向に逃げましょう。



● 屋外に避難できない場合

屋外に出ることがかえって危険な場合は、2階以上の斜面から離れた部屋で安全を確保してください。